

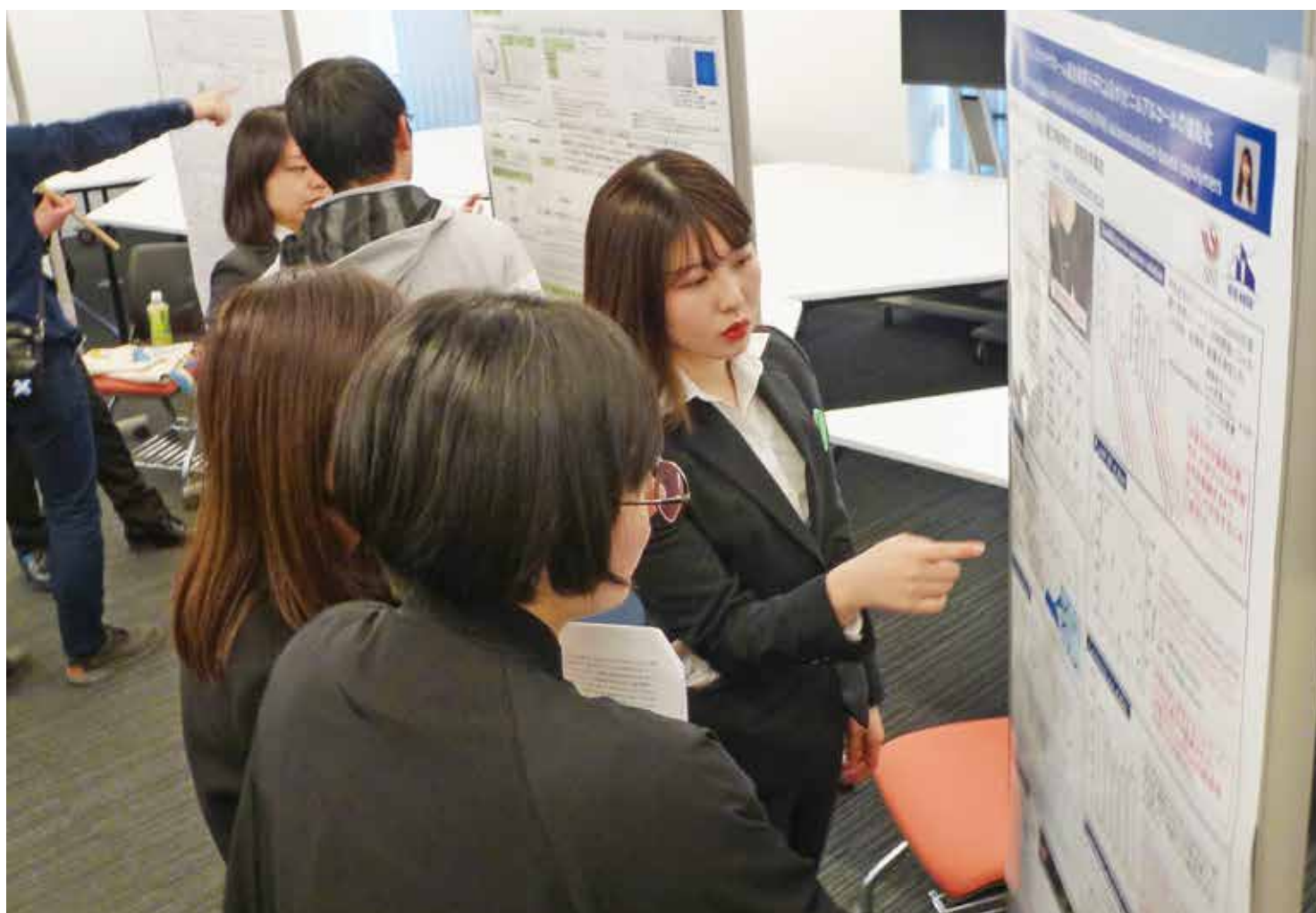
Campus News

[キャンパスニュース]

2019. **7**
Vol.54

【特集】

- システム工学専攻2年生 矢野幸子さん ブラジル航空技術大学 (ITA) での留学を報告
- 金型技術研究会の設立
- 機械工学科 佐藤彰教授 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞



■ 大学院修士論文中間発表会で、後輩からの質問に答える大学院2年生

毎年4月に大学院理工学研究科2年生は、1年次の研究成果をポスターセッション形式で発表します。ポスターを作り、発表することで自身の研究の振り返りや、教員等からの質問を受けることで気付くこともあります。来年2月に行われる修士論文発表会では、より一層進展した研究成果の報告が楽しみです。

はじまりを、つくる



静岡理科大学





学長挨拶

時代が求める学びを提供
生涯学習能力で人生を拓く私立理工系総合大学

学長 野口 博

静岡理工科大学は、静岡県内唯一の私立理工系総合大学として、首都圏の大学に負けない学びの魅力を生み出すべく、2学部6学科を持つ大学として、豊かな人間性を基に、「やまいか精神と創造性」で地域社会に貢献する技術者を育成しています。本学では、地元企業との連携も盛んで、多くの卒業生が優良企業でも活躍しています。

人材育成の面では、首都圏の大規模大学では難しい、4～5人の少人数制によるきめ細やかな学びによる人間力の育成を重視し、教員が学生の個性や資質を見抜き、目指すべき方向性を示唆してくれるのも、本学の教育の特徴の一つです。

2017年度に、理工学部、静岡県内の大学では初めてとなる建築学科を設置した効果もあって、入学希望者が増加し、学内の雰囲気も、一段と活気を増してきました。

時代に求められる学びを、さらに模索する中、2020年度には、情報学部コンピュータシステム学科に、日本でもまだ数少ない「データサイエンス専攻」を開設します。これは、サービスの利用者や利用状況のデータを分析し、改善策や新機能をサービスに活かすという、今後注目される分野です。

また、理工学部、これも静岡県内初の「土木工学科(仮称)」の設置を検討しています。静岡県での喫緊の課題である防災・減災の研究を通して、道路や河川、港湾など、静岡の未来の街づくりに求められる土木工学を学べる予定です。

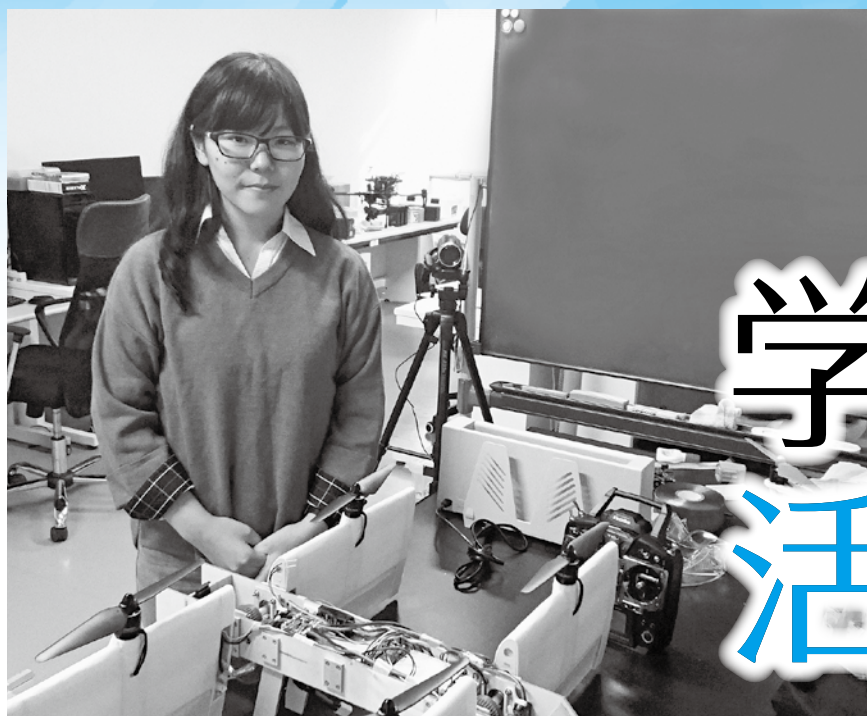
入学時と卒業時に求める学生の資質に関連して、小さい時から理工学や情報学の分野に関心がある学生はもちろん、実りある将来の人生を探している人の入学も歓迎します。建築学や情報学を学ぶ上では、文系や芸術系、人間文化系へ関心を持つことも大切なことです。卒業時には、複数の専門性を身に付けながら、自主性と協調性を持つ人材に育てて行ってほしいと思います。

遠州灘

遠州灘

来年に迫った東京オリンピックのチケットが話題となっておりますが、この9月にはエコパにてラグビーW杯が4試合行われます。ラグビーは国籍主義ではなく地域主義(国籍ではなく居住歴で代表になれるケースがある)で代表戦を行っていることもあり、外国出身の選手が多く愛着が湧きづらい、という言葉が聞きます。個人的には以前のW杯までは同じ意見だったのですが、前回のW杯で素晴らしいスピリットを見せてくれて大きく印象が変わりました。

大坂なおみ選手の活躍に象徴されるようにルーツの多様化が当たり前になっている昨今、国籍にさえもとられない“日本代表”は視野を広げてくれる気がします。アイルランドに勝ってほしいなあ…。(T)



学生の活躍

文部科学省の展開する「トビタテ!留学JAPAN」の制度を利用し、ブラジルの航空技術大学(ITA)での1年間の留学から帰国した、大学院 システム工学専攻2年生の矢野幸子さんにお話を伺いました。

Q: トビタテ!留学JAPANに採択されてから出国までは、留学に向けてどんな準備をしましたか。

A: 現地に着いた1ヵ月後から授業が始まるので、ポルトガル語を必死に勉強しました。現地に着いてからも毎日勉強しましたが、最初の2ヶ月位は本当に大変でした。でも、半年経った頃には、相手の言っていることが大体分かるようになりました。

Q: でも、言葉や文化が違う国での生活は大変だったんじゃないですか。

A: ブラジル人は、みんな気さくでフレンドリーで、何でも受け入れてくれる文化だったので、そういう部分での苦労は全くありませんでした。ただ、週末は大型ショッピングセンター以外のお店が大体閉まっていて、ブラジル特有の“のんびりとした気質”に不便さを感じることはありましたね。

Q: ITAでの授業でも日本との違いは感じましたか。

A: 先生は何でも親切に教えてくれるんですけど、授業でやっていない内容だったり、発展的な内容が課題でたくさん出るので、「自ら学ぼう!」という意欲を持って勉強しなければ、授業についていけなくなります。でも、学生は全員寮生活だったので、同じ部屋の子だったり他の仲間たちと

一緒に相談しながら勉強ができて、環境面ですごく恵まれていました。

Q: モノを使った勉強でも、違いを感じましたか。

A: 航空関係の特徴だからだと思いますが、モノを使った勉強よりも、理論をきっちりと勉強して、コンピュータを使ったシミュレーションを行うことが多かったです。モノを作る以前に、多くのシミュレーション結果を得て、理論を確立させる部分に重点が置かれているなど感じました。

Q: 今後は、どんな研究に取り組みたいですか。

A: 日本ではあまり触ることの無かった計算ソフトなどを習熟して、現地でたくさんシミュレーションを行ってきたので、それを基にした実験や実証がやりたいです。

Q: 留学前と後で自分の中で変わったな、成長したなど感じる部分はどこですか。

A: 向こうでは壁にぶつかることも多く、ネガティブになってしまうこともありましたが、そんな中でも「出来ることを探そう!」という前向きな気持ちを出せば、先生や仲間が後押しをしてくれて成長することができました。挫折することの重要性を知ることが出来ました。

Q: では、最後に海外への留学を志す後輩や高校生の皆さんへのメッセージをお願いします。

A: やりたいことがあるなら、諦めないことが大切です。諦めずに模索すれば、実現するための方法は見つかります。やりたいことがない人は、まずは行動してみてください。やったことの無い事には、チャンスがいくつも転がっています。

金型技術研究会を設立しました

特集



▲挨拶をする野口博学長

本研究会の目指すものの一例として、企業の技術・ニーズと静岡理科大学の持つ材料技術・加工技術・分析技術のシーズとをマッチングさせ、総合的な金型技術として産業に活かし技術開発の上昇のサイクルを確立します。

今年の2月18日には、設立総会を開催し、本会の概要説明などを行いました。基調講演では、王志剛氏（岐阜大学副学長）に「岐阜大学を拠点とする最新金型技術の研究開発状況と地域連携スマート金型技術研究センターの現状」をテーマとしてご講演をいただきました。

静岡県西部地区金型関連企業と静岡理科大学が連携して、「金型」に関わる技術を高め、地域金型産業を発展させることを目的として、「金型技術研究会」を設立しました。

本研究会の推進には、本学学生にも参加を呼びかけ、地域の産官学および学生が集まって金型の課題解決に取り組むことにより、金型の新しい価値を生み出すことを目指します。



▲王志剛岐阜大学副学長による基調講演

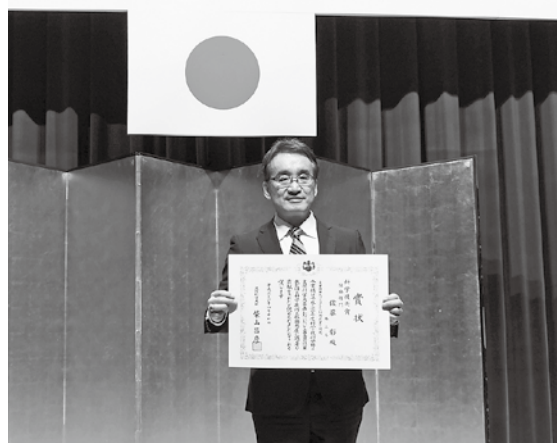
※金型研究会設立趣旨書：https://www.sist.ac.jp/pdf/kanagata_setsuritsu.pdf

機械工学科 佐藤 彰教授が 文部科学大臣表彰を受賞

本学機械工学科の佐藤彰教授が、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を表彰する「平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」を受賞しました。

佐藤教授らのグループが開発した、姿勢制御装置や自律制御システムなどにより、世界に先駆けて農業や災害対応などの産業用途に無人ヘリコプタの活用を実現したことが高い評価を得ての受賞となりました。

学技術分野の文部科学大臣表彰



▲文部科学大臣表彰を受賞した佐藤彰教授

- 【業績名】 産業用無人ヘリコプタの制御装置の開発
【受賞者名】 佐藤 彰 静岡理科大学理工学部機械工学科教授
中西弘明 京都大学大学院工学研究科講師
大川宏久 有限会社アイエス取締役社長
中村 克 ヤマハ発動機株式会社ソリューション事業本部
ロボティクス事業部UMS統括部長



授業の紹介

■ 材料実験

「材料実験」は、建築学科2年生後期の選択科目で、「建築材料1」で得たコンクリート、鋼材および木材の基礎知識を活かし、実験演習を通じてこれら材料の物理的性質を体感し、実験の原理と方法、機器類の操作法、実験データの整理法の習得を目的としています。

本科目では、コンクリートについては、調合計算、骨材試験、試験練り、スランプ・空気量試験、供試体の採取・養生、強度試験を、鉄筋については引張試験を、木材については圧縮試験を行います。また、コンクリートの強度推定と部材内部の鉄筋探査を非破壊法による機器を用いて実践します。実験で得たデータはレポートにまとめてもらいますが、数名のグループで実験を行いますので、グループ単位で結果の良否やまとめ方を議論しながら進められます。このようにグループとして実験を行うことで、建築にとって不可欠な協調性が身につきますし、何よりもデータの重要性や実験に真摯に向き合う態度などが身につきます。

担当教員：建築学科 教授 太田達見、准教授 崔琥



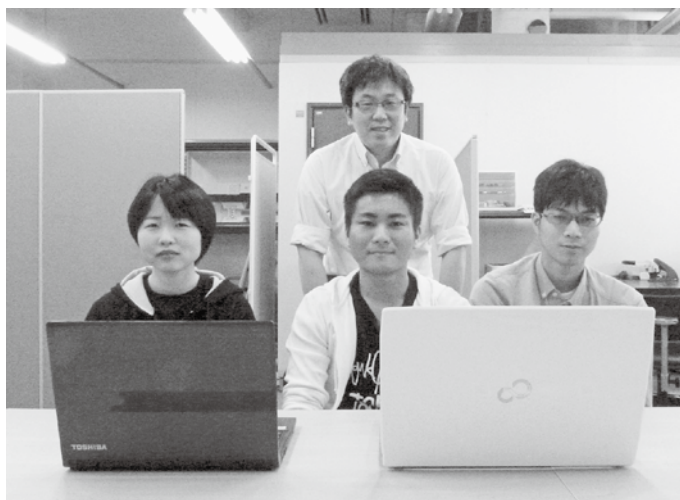
▲コンクリートの試験練り



▲骨材試験(密度試験)

心理学研究室(情報デザイン学科)

「人間とはどのような存在か」「人間は現代社会とどのように相互作用しているのか」について心理学的手法を用いて幅広く研究しています。例えば、視覚や聴覚、体性感覚などの複数の感覚情報がどのように統合されるのか、映像コンテンツの臨場感や迫真性はどうすれば高めることができるのか、災害などの非常事態に強い人にはどのような特徴があるのか、幼保施設の防災対策にはどのような課題があるのか、どうすれば精神的健康を高めることができるのか、などを研究してきました。「よく遊び、よく学べ」が研究室のモットーで、「研究を通じて社会や生活に潤いをもたらすこと」を研究室のミッションにしています。



研究室訪問

第42回

研究室学生からひとこと

寺田 創 さん(情報学部コンピュータシステム学科4年)

私は、人間とゲームについての研究をする為、現在は研究の準備をしています。心理学研究においては、複数の人に被験者となってもらうので、研究が上手くいくためには被験者の一人ひとりに実験に真摯に取り組んでもらう必要があります。その為に、実験でトラブルが起きないように前もって行動・手順などの研究計画をしっかり立てておくのが大切です。

研究室担当教員

本多 明生 先生

■プロフィール

山形県出身。東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員、東北福祉大学助教、山梨英和大学准教授等を経て、2018年に本学情報学部に着任。実験心理学、感性工学、災害心理学等の研究に従事。

Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

こどもたちがまた来たくなるクリニック

はぐみクリニック 院長 西尾 友宏さん



私は袋井市出身で、大学時代から長く住んでいた滋賀県から地元に戻り、中東遠総合医療センターで5年間勤務し、2019年5月に掛川市の長谷で小児科クリニックを開院いたしました。

クリニックづくりの過程で、こどもたちの病院への不安や恐怖心をやわらげる方法はないかと考えていたところ、コンピューターシステム学科の定國先生が映像を使ってそのような取り組みをされていると知り、思い切って相談の電話をしてみました。自分の思いを伝えたと、待合室でのプロジェクションマッピングを提案いただき、情報デザイン学科の松田先生との合同プロジェクトを立ち上げてくださいました。森の景色が印刷された壁紙へプロジェクションし、季節や天候を反映して風景が変化したり、ときおりかわいい動物が登場したりします。待合室からは、「今日は雨が降ってる!」「鳥さんいつくるかなー」とこども達の楽しそうな声が聞こえてきます。



地元の大学と協力して夢を実現することができたことは、とても嬉しく思います。定國先生、松田先生はじめ関係者の皆様、ありがとうございました。

建築と地域と人と

倉布人 一級建築事務所 副代表
(一社)ふくろいコミクス 代表理事 倉田 布美江さん



この袋井市に建つ大学に「建築学科」が新設されると知った時、大変嬉しく思いました。市内の地域活動の中では理工科大生に出会う機会が少なく、どのようなアプローチをすれば学生たちと連携が図れるのか考えあぐねていました。そこに「建築」という共通のベースができたのです。準備室の段階から、建築学科の先生方は公私にわたり積極的に地域と関わってください、大学がより身近に感じられる様になりました。

「建築」を学ぶという事は、建物の事だけではなく、その土地の環境や地域性、文化、歴史、人との関わりまでも考えることになります。実際に、私たちが保存活動を行っている旧中村洋裁学院周辺の土地が設計課題に取り上げられることで、学生たちは街を歩き、調べ、袋井の未来の姿を想像しながら設計に取り組んでいます。その課題発表の場は公開され、新鮮な発想に触れることができます。その際に第一線の建築家の講評を聞ける事も、私たちにとって大変刺激となっています。何よりも、この地で建築を学んだ皆さんが、再来年から社会人となって、地域の建築に新しい風を吹き込んでくれることを待ち望んでおります。

活躍する卒業生



株式会社ビジネスブレイン太田昭和(BBS) クライアントイノベーション本部 静岡支店 村松 靖久さん

理工学部情報システム学科(現:情報学部コンピュータシステム学科)
第13期卒業生

私は幸谷研究室に所属し、卒業研究ではE-Learningシステムの構築について研究を行いました。元々、プログラミングはあまり得意ではなく、何度か挫折しそうになりましたが、先生からのご指導を受けながら、なんとかシステムとして完成させることができました。

研究室での活動を通して、自身で問題を解決する力や、最後まで諦めずにやり遂げる強い精神力を養えたと思います。

現在私が所属するクライアントイノベーション本部は、お客様に密着してビジネスを展開することを推進しています。その中で私は製造業のお客様のシステム部門を担当しており、生産管理システムの保守・導入に携わっています。具体的には、生産ラインの計画立案、完成実績を報告する仕組みを構築しています。お客様の生産業務に密接に関わっており、ユーザー様からはこのシステムを導入したことで、以前と比べ作業効率がUPした、と評価を頂き、私が携わったシステムが生産現場に役立っていることにとってもやりがいを感じています。

今後も、お客様の視点で考え、お客様の業務改善・利益創出に貢献し、お客様の期待を超えるサービス・品質を提供し続けていきたいと思っています。

令和元年度優秀賞表彰

機械工学科

2年生 小木 稜平
陳 慧強
3年生 鈴木 晴空
神谷 友貴
4年生 石川 隆介
小松 利光

物質生命科学科

2年生 石原 志奈
鈴木 綾乃
3年生 山原 翔
本田 兼吾
4年生 内山和郁子
中村 里帆

コンピュータシステム学科

2年生 高田 洸
前原広太郎
3年生 竹内 優太
山本 幹大
4年生 加賀コリスヒロ
牧野 仁志

1年間の学業が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理工科大学優秀賞」の表彰式を令和元年5月29日(水)に行いました。受賞者34名には、学長から表彰状と副賞が授与されました。(敬称略)



受賞者の皆さん
おめでとうございます。

電気電子工学科

2年生 原田 航希
川島 巧大
3年生 吉田 拓矢
吉倉 達哉
4年生 渡邊 郁弥
前田 樹

建築学科

2年生 田中 葵
山本 弓貴
3年生 太田帆乃伽
鈴木 那実

情報デザイン学科

2年生 尾形加奈恵
中木 雅人
3年生 八木 成予
鈴木 健太
4年生 海野 高幸
寺分 元則

人事異動

— 平成31年4月1日付採用 —



情報学部情報デザイン学科 准教授
谷口 ジョイ

専門分野 応用言語学、バイリンガリズム、
社会言語学

略歴 東京大学大学院 総合文化研究科 博士課程単位取得退学、
博士(学術)。静岡英和学院大学
人間社会学部 准教授を経て、
本学准教授に就任。

趣味 ヨガ、山歩き、サイクリング



教育開発センター 特命准教授
松本 直己

専門分野 教職課程

略歴 早稲田大学大学院 政治学研究
科(修士課程)修了。静岡県立
藤枝東高校、浜松北高校等の校
長を歴任後、本学特命准教授に
就任。

趣味 観劇、山歩き

役職者紹介

2019年4月1日現在

学長 野口 博
副学長 小澤 哲夫(教授)
理工学部長・教育統括 石田 隆弘(教授)
情報学部長 幸谷 智紀(教授)
機械工学科長 感本 広文(教授)
電気電子工学科長 村上 裕二(教授)
物質生命科学科長 関山 秀雄(教授)
建築学科長 丸田 誠(教授)
コンピュータシステム学科長 國持 良行(教授)
情報デザイン学科長 奥村 哲(教授)
学生部長・学生支援統括 大嶋 弘順(教授)
附属図書館長 小林久理眞(教授)

研究・産学官連携統括 藤原 弘(教授)
入試広報・大学広報統括 山崎 誠志(教授)
事務局長 下田 修
YES長・やらまいか創造工学センター長 増田 和三(教授)
工作センター長 後藤 昭弘(教授)
先端機器分析センター長 齋藤 明広(教授)
情報センター長 水野 信也(教授)
教育開発センター長 土肥 稔(教授)
国際交流センター長 佐藤 健司(教授)

※YES: やらまいかエディケーションサイト

高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト 2018最終審査会

2月24日(日)、浜松市と本学が主催する、「高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2018」の最終審査会を浜松市内で開催しました。

高校生の考える「こんなモノがあったらいいのに」や「こんなコトをやってみよう」というアイデアを競い合います。今回で6回目を迎えた本コンテストに、前回は上回る静岡県内外の高校34校246件の応募がありました。最終審査には5グループが進出し、審査員に対してプレゼンテーションで自身のアイデアの優位性・実現の可能性や夢や希望を訴えました。審査の結果は、前田光太さんを代表とする沖縄工業高等専門学校「海中ドローンと光でサンゴを救え!〜グリーンIoT基盤の構築を目指して〜」が最優秀賞、浜松学芸高等学校「浴燈(ゆんぶ)ストリート」が優秀賞となりました。



公開シンポジウム

3月2日(土)、本学にて「未来の健康を支える、健康医療機器の現状と革新」をテーマに公開シンポジウムを開催し、当日は77名の皆様にご参加いただきました。オムロンヘルスケア株式会社技術開発統轄部 統轄部長付技術専門職R&Dフェロー 志賀利一氏による講演やその後のパネルディスカッションにより、健康機器と医療機器産業の現状と、その中で活かされる様々な技術がこれからの健康を支えるだけでなく、産業の発展にも役立つことについて深く知る機会となりました。



種子島ロケットコンテスト

3月6日(水)～9日(土)に開催された「第15回種子島ロケットコンテスト」に学生サークルSpace Travelerが事前の書類審査を通過して本大会へと出場しました。本大会では、機体審査で全体重量の規定値を越える等のアクシデントに見舞われながらも、チーム一丸となって課題を乗り越えることで、準優勝を勝ち取りました。参加学生たちは、大会を通じて得た経験や情報を活かした改良を進め、次回で雪辱を果たす意気込みです。



記念植樹

3月8日(金)、大学近くの愛野公園で、卒業生代表11名がヤブツバキを記念植樹しました。この植樹は、4年間お世話になった袋井市民へのお礼として卒業生からの募金により、1期生から毎年行われており、今回で25本目の植樹になりました。

卒業生たちは「社会人として成長し、お世話になった地元に恩返しをしたい」と未来への抱負を力強く話していました。



卒業式

3月16日(土)、平成30年度卒業証書・学位記授与式を挙行し、理工学部、情報学部、合わせて277名と大学院生11名が卒業しました。

在学生の送辞に対して、卒業生を代表して理工学部電気電子工学科の飯田基博さんが「在学中の仲間たちと支え合いながら、諦めず努力した日々は、今後私たちの歩む道に待ち構える、様々な課題や苦難を乗り越えるための大きな糧となる。また、大学で得た知識と経験を活かし、創造力と積極性を持ってそれらを乗り越えます」と答辞を述べました。



春休みたいけん研究室

3月26日(火)、本学にて「春休みたいけん研究室」を開催しました。本学学生と小学生3～5年生がグループに分かれて実験を行い、最後に結果をまとめて本学教員や保護者の前で当日学んだ内容を発表しました。参加した小学生にとっては、次の学年の授業で行う実験の先取り体験だけでなく、自ら調べ・考え・まとめ・発表するという研究の流れを楽しみながら知る絶好の機会となりました。



入学式

4月3日(水)、平成31年度入学式を挙行し、理工学部、情報学部、合わせて442名と、大学院生11名が入学しました。

新入生を代表して、理工学部建築学科の大平成耶さんが「それぞれが目標を達成し、社会に貢献できる人間と成るよう、自発的に、そして真摯な姿勢で勉学に励み続けます」と宣誓しました。



チャレンジハイク

5月18日(土)、クラブ連合委員会主催の「チャレンジハイク2019」を開催しました。今年は初の試みとして、スタート地点を愛野駅と大学の2箇所を設定しました。参加者は、法多山や愛野公園など袋井市の名所を回る12kmの道のりを、スタンプラリーや謎解きなどのレクリエーションで楽しみながら完歩しました。



総合防災訓練

5月23日(木)、本学にて教職員と学生による「総合防災訓練」を行いました。学生と教職員の総数1,000名が参加した訓練では、避難訓練、AED訓練、消火訓練、煙体験訓練や非常食の試食体験を行いました。また、本年度は、避難場所をアカデミックプラザとし、災害時の建物倒壊等による落下物などを想定し、これまで以上に安全を確保した避難経路へと改めました。参加者たちは、避難行動や様々な訓練に参加し、いざという時の備えについて確認しました。



入試広報NEWS

■2020年4月、情報学部コンピュータシステム学科に「データサイエンス専攻」を開設します

【概要】

インターネットなどの情報インフラが整備され、家電や自動車を始めとする、私たちの生活で使用する殆どのもがインターネット（情報）で繋がる時代が訪れています。この時代で必要、活用されているものが、私たちの実生活から産み出されている膨大な「データ」です。

データサイエンスとは、この社会に溢れているデータから価値を見出す学問です。ICT（情報通信技術）の進化した現代では、あらゆるビジネスや医療、教育、行政等において、高度なデータ処理能力、データ分析力が必要となっています。

この情報社会を生き抜くために必要とされている、日々蓄積されていく膨大な情報（ビッグデータ）を解析し、そのデータの利活用で社会貢献する人材を育成することが、コンピュータシステム学科にデータサイエンス専攻を開設する目的です。

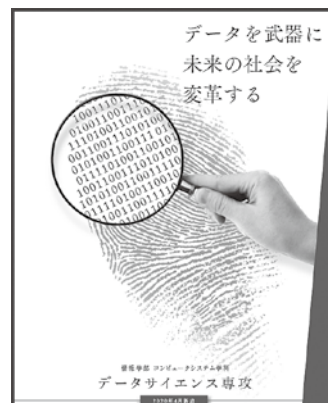
【育成する人材像】

- ・ 情報科学の専門的技術・知識を活用して、ICTと人間の感性が調和する高度情報社会の実現のために、現実社会が抱える課題を、数理的な法則・関係を見抜くことで解決する能力を獲得している。
- ・ グローバルな視点から、データサイエンスにかかる課題を周囲の環境、技術者倫理や社会的責任等を総合的に判断して問題を提起し、数理的な論理思考力を駆使して解決に導くことができる。

【入試概要】

1. 設 置 情報学部コンピュータシステム学科データサイエンス専攻
2. 募集人員 15名
3. 専攻方法 前期センター利用(S)・(A)入試

※詳細は、データサイエンス専攻特設ページをご確認ください。



静岡理工科大学の「スゴい」を体感! 自分の将来像を見に行こう!

進路イベントの日程【9月～11月】

- オープンキャンパス 9月8日(日) 開催時間10:00～16:00
模擬講義、研究室見学・体験、学科紹介ツアー、学食体験、保護者説明会、入試要項配布、過去問題配布など
入試情報や就職情報、最新の学科情報もご案内。個別相談にも応じます。
- Weekday大学見学会 10月14日(祝)、11月4日(祝) 開催時間13:00～16:00
授業見学、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

詳細や参加申し込みは、
本学受験生サイト
(<https://www.sist.ac.jp/navi/>)
からどうぞ!

2020年度生入試日程 *詳細は本学受験生サイト、入試要項でご確認ください。

入試種別	試験日	結果通知日
指定校推薦入試		
公募制一般推薦入試・公募制自己推薦入試	11月16日(土)	11月23日(土)
専門高校・総合学科給費奨学生入試		
給費奨学生推薦入試	12月14日(土)	12月21日(土)
一般前期(A)入試・(B)入試	2月1日(土)・2日(日)・3日(月)	2月14日(金)
一般前期(A)センタープラス入試・(B)センタープラス入試		
一般中期(A)入試・(B)入試	2月15日(土)	2月22日(土)
一般中期(A)センタープラス入試・(B)センタープラス入試		
一般後期入試	3月5日(木)	3月13日(金)
一般後期センタープラス入試		
前期センター試験利用(S)入試・(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	2月14日(金)
中期センター試験利用(A)入試・(B)入試		3月13日(金)
後期センター試験利用(A)入試・(B)入試		3月20日(金)



■ 新 同窓会評議員紹介

この度、第25期卒業生の代表として同窓会評議員に任命されました、榎本敬亮です。今後は、同窓会評議員として、自分に与えられたことを真面目に頑張りたいと思います。

さて、現在の同窓会では「ホームカミングデー」や「LINE@」等を活用し、同窓会ネットワークの構築を、宮川会長を中心に行っております。「ホームカミングデー」では同窓生が久しぶりに大学に帰る良いコミュニティの場となっています。これからは、同窓会活動の情報だけでなく、同窓生の皆様のご活躍や変化している静岡理工科大学グループの情報を、SNSを通じて発信することで、同窓生間の繋がりを作ることが出来ればと考えています。

微力ではございますが、同窓会活動に参加することで、より一層同窓会を盛り上げることができればと思っています。今後とも同窓会活動へのご理解ご協力とご支援ご厚情を賜りますようお願い致します。



同窓会評議員
榎本 敬亮 さん
(電気電子工学科卒業生)

■ ホームカミングデー開催案内

今年も、本学にてホームカミングデーを開催します。

第19回目の開催を迎える今回は、同窓生参加型のコミュニケーションゲームや豪華商品が当たる大抽選会を企画しています。今年は会場を変更し、学生ホール1階カフェテリアにて開催します。新しい会場には、キッズスペースを設けておりますので、是非、ご家族でのご参加をお待ちしております。

【日 時】 令和元年10月27日(日) 11:00~12:30 (大学祭2日目)

【会 場】 学生ホール棟1階カフェテリア ※今年会場が変更になりました。

【参加料】 無料

【対 象】 本学卒業生及びそのご家族



■ 同窓会各種SNSのお知らせ

ホームカミングデー等の開催告知、役員コラム、同窓会ニュース等の最新の情報を一早くお届けします! 盛りだくさんの内容となっておりますので、是非登録してください!

LINE@に友だち登録すると、ホームカミングデーの景品当選確率2倍になるよ! 是非登録をお願いします!



■ 保護者懇談会の開催

【日 時】 令和元年10月26日(土) (大学祭1日目)

【会 場】 本学300講義室(学生ホール棟3階)

保護者懇談会では、午前に全体会と学科別懇談会、午後に個別面談(希望者のみ)を開催します。

全体会では本学の就職状況や外部講師を招いての講演会が予定されております。学科別懇談会では各学科の特徴や近況などについてご説明させていただきます。午後に行われる個別面談はご希望の方のみとなりますが助言教員より学生生活の様子などについてお話をさせていただきます。また当日は大学祭も開催されますのでぜひこの機会に本学までお越しください。

なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封させていただきます。

サークル紹介

Computer Communication Circle

部長 寺部 太陽さん(コンピュータシステム学科3年)

こんにちは、Computer Communication Circleです。私たちはそれぞれの単語の頭文字をとって3Cと呼んでいます。

私たち3Cは現在のんびりとしたメンバー20人で活動しています。プログラミングスキルの向上を目的として、プログラムの勉強やコンピュータの作成などを行っています。

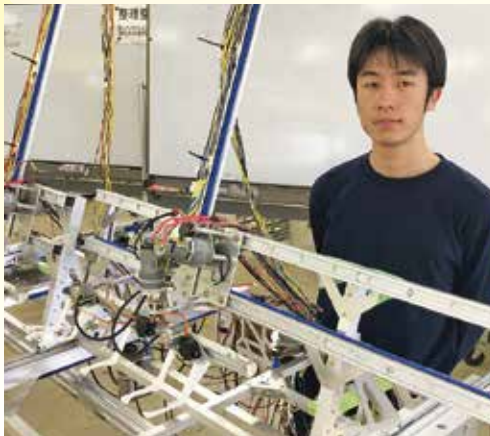
その中で、プログラミングコンテストへの参加やゲーム開発なども行っており、昨年度はプログラミングコンテストのACM-ICPCに

て3Cのメンバーが見事予選を突破し、横浜で行われるアジア大会に出場しました。アジア大会の様子はyoutubeにあるので興味があったら見てみてください。

ゲーム開発は、毎年作成物を大学祭に展示しています。また、前回の大学祭ではVRゲームなどを展示し盛り上がりました。今年も大学祭に参加する予定なのでぜひ来てください。



スポットライト がんばる理工科大生



増田 光晟さん(電気電子工学科4年)

私はモノづくりサークル「M.C.F. (Machine Creator's Factory)」に所属しています。このサークルでは機械を作る人、電子回路を作る人、制御部分を作る人というように役割分担をしてロボットの設計製作を行います。私は大学の1年次からM.C.F.に所属しており、キャチロボバトルコンテストなどの様々な大会に出場してきました。

ロボット製作の難しいところは、様々な分野の知識を複合して考えなければ良いものが作れないという点です。例えば、モータの選定を行う際、ロボットの機構、質量に依存して要求される出力、実際に制御する時の加速の度合いなどを考慮する必要があります。その為、チームでロボットを作る際には仲間との情報共有を常に行い、違う分野のことも考えながら製作に取り組むことが重要です。

仲間との意見衝突や、製作中のトラブルなど大変なところもありますが、仲間とロボットを作り上げていく充実感や、ロボットが動いた時の達成感是非常に大きく、やりがいを感じています。また、大学祭で毎年行われている「電気自動車コンテスト」にも参加し、ロボット以外のモノづくりも行っています。現在は、新入生や後輩の指導を行っており、ノウハウを継承することに力を入れています。

編集後記

薫風に誘われて、理工科大学へ連なる坂道をそぞろ歩く。途中、花々の香が漂う。池の傍らにしゃがみ、木々の新しい葉の色と空の青さが溶け込むさまに魅せられる。しばしして、学生たちが待つ実験室へと歩を進める。当原稿の提出がせまる5月、山間に沈む夕日・夕映を追い日が多くなる。一日の任務を終えた薄明の刻、初めて袋井市へ来た頃を思い返す。自身にとって新しい遠州の地で、現地の学生を育てながら、教育と研究をする場を与えてくれた大学に恩返しをしたい。赴任当初に思い描いた夢の一端をこのたび、キャンパスニュースの編集委員として実現させて頂いたことに感謝する。(K)

静岡理工科大学キャンパスニュース

令和元年7月30日発行

企画・編集・発行 / 静岡理工科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<https://www.sist.ac.jp> E-mail:shakai@sist.ac.jp

